

# 東京バッハ合唱団 月報

【第 676 号】 2018 年 10 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.676

October 2018

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## エキュメニカルの集いに バッハの《Jesu meine Freude》、モテットとオルガン曲の演奏

松山 與志雄（日本エキュメニカル協会理事長）

日本エキュメニカル協会は、今年 11 月 3 日（休日・土曜）の午後 2 時～5 時「講演と音楽の集い」を JR 代々木駅前の国際基督教団・代々木教会（牧師・吉本真理先生）で「洗礼と聖餐」をテーマとして開催する予定です。そのため講演とともに音楽演奏を、昨年に引き続き今年も、合唱を東京バッハ合唱団に、オルガン演奏を日本オルガニスト協会の会長・松居直美氏にお願いしましたところ、活動でご多忙にもかかわらず、早速合唱団から演奏曲目をお知らせくださって心から感謝しております。

予定曲目は J. S. バッハ作曲のモテット 2 曲で、そのひとつが《Jesu meine Freude（イエス わが喜び）》で、主催側としてたいへん喜んでます。というのはこのモテットの歌詞のなかに『新約聖書ローマ人への手紙』8 章 1 節、2 節、9 節、10 節、11 節の 5 節が配置されており、これらは「洗礼と聖餐」を神学として取り上げる際の必須参考聖句です。そのため 11 月 3 日の「講演と音楽の集い」は、言葉による講演だけではなく、また音楽をとおして「洗礼と聖餐」の主題を一望し、また俯瞰（ふかん）することができるようになります。

オルガン演奏の松居氏が現在、他の演奏とともに選ばれているオルガン作品は、同じくバッハの《Jesu meine Freude》で、シュミエーダーによれば馴染みのあるコラル前奏曲のほかに数曲ありますから、どんな作品が選ばれ、演奏されるか楽しみに待っているところです。

当日の講演者のひとり上智大学・山岡三治氏のお話では、来年、フランシスコ教皇の来日を取り沙汰されているとか、また 2 年先に予定されている東京オリンピックを機会に、日本のキリスト教界もエキュメニカルな計画が待たれていると聞いております。

東京バッハ合唱団のうえに主の祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

日本エキュメニカル協会主催

「講演と音楽の集い」

主題：洗礼と聖餐

日時：11 月 3 日（土、文化の日）

14 時～15 時 講演（山岡三治氏、ほか）

15 時～16 時 オルガン演奏（松居直美氏）

16 時～17 時 合唱演奏（東京バッハ合唱団）

会場：国際キリスト教団・代々木教会

（JR 代々木駅・西口駅前、ビル 7 階）

合唱曲目：（日本語上演・大村恵美子訳詞）

・モテット《イエス 喜び（Jesu meine Freude）》

・モテット《頌めよ主を 世の民こぞりて》

（指揮：大村恵美子、伴奏：新妻由加）

入場無料

## 2019 年(来年)、後半以降の演奏計画

大村 恵美子（主宰者）

月報紙上では、次回・第 117 回（2018 年 12 月）と次々回・第 118 回（2019 年 5 月）の定期演奏会までの予定をご案内してきました（月報 No. 673 号。次ページの囲みの各予告欄を参照）。

また、来年（2019 年）後半シーズンには、第 119 回定期演奏会として、クリスマスのカンタータ BWV 110 《喜び 笑い 溢れ》と《クリスマス・オラトリオ》後半 3 部を計画していますが、これまでお伝えしたとおり、第 117 回定演の《クリスマス・オラトリオ》前半 3 部の上演予定を、会場規模の問題や団員数・団財務状況などの都合により、会場を荻窪教会に移して、第 II 部を中心とした縮小上演とすることに変更しましたので、来年末も同様の縮小版で後半をこなすか、あるいは、諸課題を解消して、何とか大きな会場で、前半の I・II・III 部の全曲を、独唱者とフル編成のオーケストラで改めて鳴り響かせるか、とまさに両案検討のさなかです。

### 月報 10 月号 CONTENTS

・次回公演（第 117 回定期演奏会）、次々回公演（第 118 回定期演奏会）予告 …… p. 2

・田中克彦さんの、半世紀の思考の軌跡 — 「田中克彦セレクション」全 IV 巻（新泉社）—（大村健二） …… p. 4

## ■第119回定期演奏会 (2019年後期・冬か?)

### ○カンタータ第110番《喜び 笑い 溢れ》

Unser Mund sei voll Lachens BWV 110

1725年12月25日初演、降誕節第1祝日用。編成(フル編成の場合):独唱 SATB、合唱、tp3、tm、fltr2、ob3、oba、obc、fg、弦・通奏低音。演奏歴:1982、1997年。出版譜:2002年刊(50曲選)。

### ○《クリスマス・オラトリオ》

Weihnachts-Oratorium BWV 248

後半3部の縮約上演、または前半3部の完全上演。演奏歴:前半1963以降18回(直近2012)。後半1965以降16回(直近2013)。楽譜:未刊。

上に述べたように、合唱団の規模の現状では、当面、コンサートホールでのフル編成の公演を年1回とし、もう1回は教会を会場としての縮約されたコンサートとする、という形も話し合われています。今年と来年のシーズンのような流れが一つのモデルになるのか、流動的な状況の中で、時期の設定は予測がつけられませんが、楽譜出版の契約交渉(独ブライトコプフ社)や制作(自費出版)を先行させるためにも、せめて選曲だけは早めに済ませて、新しい楽譜によってたつぷりと練習した成果を、多くの皆様とたのしめるようにしたいと考え、私案をご披露することにいたします。

\*

## ■第120回定期演奏会 (2020年前期・春か?)

ステージ主題:「急ぎ行かん 弱くともたゆまず ながもとに」(BWV 78の第2曲、S/A二重唱の歌詞より)

・カンタータ第158番《安らかにあれ おののく心》

- ・カンタータ第87番《今までは なれら求めざりき》
- ・カンタータ第94番《いかで世を問わん》
- ・カンタータ第78番《イエス わが心を》

(演奏時間:計76分)

### ①カンタータ第158番《安らかにあれ おののく心》

Der Friede sei mit dir BWV 158

1735年以前初演(復活節第3祝日)。編成:独唱SB、合唱、ob、vnソロ、通奏低音(10分)。演奏歴:1964、1968年(未刊)。

- 1) レチタティーヴォ(B):〈安らかにあれ おののく心〉
- 2) コラル(S) 付きアリア(B):S〈世に別れ告げて〉/B〈この世に別れ告げん〉
- 3) レチタティーヴォ(B):〈主よ治めたまえ わが心を〉
- 4) コラル:〈これぞまことの過越しの糧〉

### ②カンタータ第87番《今までは なれら求めざりき》

Bisher habt ihr nichts gebeten in meinem Namen BWV 87

1725年5月6日初演(復活節後第5日曜日)。編成:独唱ATB、合唱、ob2、obc2、弦・通奏低音(20分)。演奏歴:未演(未刊)。

- 1) アリア(B):〈今までは なれら求めざりき〉
- 2) レチタティーヴォ(A):〈み言葉恐ろし 心して味わい 悟れ〉
- 3) アリア(A):〈父よ 赦したまえ〉
- 4) レチタティーヴォ(T):〈罪積もり 天に至るとも 主わが心の内に〉
- 5) アリア(B):〈世に悩みあり されど 雄々しかれ〉
- 6) アリア(T):〈苦しみは もださん イエス助けん われを〉

#### <次回公演予告>

### 第117回定期演奏会

“天使と羊飼いのクリスマス”

—《クリスマス・オラトリオ》第Ⅱ部を中心に—

◆日時と会場:2018年12月22日(土)【二部公演】

**A** 午後2時開演、日本キリスト教団・荻窪教会

**B** 午後6時30分開演、同・三崎町教会(水道橋)

◆曲目:J.S.バッハ(日本語上演・大村恵美子訳詞)

・カンタータ第28番《頌むべきかな 年終り》

Gottlob! nun geht das Jahr Ende BWV 28

・《クリスマス・オラトリオ》より

Weihnachts-Oratorium BWV 248/II +

第Ⅱ部「この地に野宿して 夜」(全曲)

第Ⅲ部「あまつ君よ 聞きたまえこの響きを」(抜粋)

◆演奏:

F1 山田恵美子、Ob 土屋愛菜、Vn 中川典子

KB 菅原 光、Org 田尻明葉

合唱/斉唱・東京バッハ合唱団、指揮・大村恵美子

◆入場無料:予約者を優先、先着100名まで。両会場とも、予約は10月1日より受け付けます。(事務局)

#### <次々回公演予告>

### 第118回定期演奏会

◆日時:2019年5月18日(土)午後2時開演

◆会場:府中の森芸術劇場ウィーンホール

◆曲目:J.S.バッハ(日本語上演・大村恵美子訳詞)

・カンタータ第109番《われは信ず わが主よ》

Ich glaube, lieber Herr, hilf meinem Unglauben BWV 109

・カンタータ第166番《いずこへ 主よ 行きたもう》

Wo gehst du hin BWV 166

・カンタータ第188番《わが堅き望み》

Ich habe meine Zuversicht BWV 188

・カンタータ第79番《神は わが光 盾》

Gott der Herr ist Sonn und Schild BWV 79

◆演奏:

[ソプラノ] 光野孝子 [アルト] 谷地敏晶子

[テノール] 鏡 貴之 [バス] 小藤洋平

[室内楽] 東京カンタータ室内管弦楽団

[オルガン] 草間美也子

[指揮] 大村恵美子

◆入場券:全自由席3500円(発売開始2018年12月)

7) コラール:〈イエス いませば 煩いもて暮るるべき〉

### ③カンタータ第94番《いかで世を問わん》

Was frag ich nach der Welt BWV 94

1724年8月6日初演(三位一体節後第9日曜日)。  
編成:独唱 SATB、合唱、fl、ob2、oba2、弦・通奏低音(25分)。演奏歴:未演(未刊)。

- 1) コラール合唱:〈いかで世を問わん〉
- 2) アリア(B):〈世を譬うれば 煙か影か〉
- 3) コラールとレチタティーヴォ(T):〈華やぎ求めて 高き位に 群がる〉
- 4) アリア(A):〈上辺の世 その富も宝も〉
- 5) コラールとレチタティーヴォ(B):〈思い 煩い/ 世のわずらいとは かく悩み〉
- 6) アリア(T):〈世は 浅き喜びと愉しみを おろかに 褒めあぐ〉
- 7) アリア(S):〈めしいたるこの世 魂 気遣わず われにはおぞまし〉
- 8) コラール:〈いかで世を問わん 世と その宝〉

### ④カンタータ第78番《イエス わが心を》

Jesu, der du meine Seele BWV 78

1724年9月10日初演(三位一体節後第14日曜日)。  
編成:独唱 SATB、合唱、hn、fl、ob2、弦・通奏低音(21分)。演奏歴:1975、1990、1993、2004年。出版譜:2003年刊(50曲選)。

- 1) コラール合唱:〈イエス わが心を 救い出したま いぬ〉
- 2) 二重唱(S/A):〈急ぎゆかん 弱くともたゆまず な がもとに〉
- 3) レチタティーヴォ(T):〈ああ われ罪の子なり いたく迷う〉
- 4) アリア(T):〈罪を拭うなが血は わが胸を軽く 解き放ちたもう〉
- 5) レチタティーヴォ(B):〈み傷 いばら 葬り 嘲り 主に 負わせしもの いまや勝利のしるし〉
- 6) アリア(B):〈わが心を鎮め 主は 報いたもう〉
- 7) コラール:〈弱きわが心 強めたまえや〉

\*

### ■第122回定期演奏会(2021年)[第121定期、未定]

ステージ主題「頭を挙げよ 高く 喜びみちて」

(BWV 70の第8曲、テノール・アリアの歌詞より)

- ・カンタータ第70番《起きよ 起きて祈れ!》
- ・カンタータ第199番《わが心は 乱れ 騒ぐ》
- ・カンタータ第179番《神 畏るる心 偽りなしや》
- ・カンタータ第167番《主の愛を 讃えよ》

(演奏時間:計84分)

### ①カンタータ第70番《起きよ 起きて祈れ!》

Wachet! betet! Betet! Wachet! BWV70

1723年11月21日初演(三位一体節後第26日曜日)。

編成:独唱 SATB、合唱、tp、ob、通奏低音(25分)。  
演奏歴:1985年(未刊)。

#### <第1部>

- 1) 合唱:〈起きよ! 起きて 祈れ!〉
- 2) レチタティーヴォ(B):〈恐れよ 罪びとら 夜は明け 隠れうるものなし〉
- 3) アリア(A):〈そは いつ この世の エジプトより 逃がるる日は〉
- 4) レチタティーヴォ(T):〈望みもて 身を 心にとどめおけ〉
- 5) アリア(S):〈嘲けらるるもよし やがて時至らば 主イエス 雲に乗り〉
- 6) レチタティーヴォ(T):〈されど み神は しもべら を顧みたもう〉
- 7) コラール:〈喜べわが霊 忘れよ悩み〉

#### <第2部>

- 8) アリア(T):〈こうべを挙げよ 高く 喜びみちて〉
- 9) レチタティーヴォ(B)とコラール(旋律 tp):〈ああ この大なる日〉
- 10) アリア(B):〈幸なる憩いの日 召したまえ われを なが家に〉
- 11) コラール:〈天地(あめつち)ならず わが霊 あこがる〉

### ②カンタータ第199番《わが心は 乱れ 騒ぐ》

Mein Herze schwimmt im Blut BWV 199

ソプラノ独唱用。1713年8月27日、ヴァイマル初演(三位一体節後第11日曜日)。編成:独唱 S、ob、弦・通奏低音(26分)。演奏歴:1984年(未刊)。

- 1) レチタティーヴォ:〈わが心は 乱れ 騒ぐ〉
- 2) アリア:〈言葉なき呻きよ わが悩み述べよ 閉じし口に代りて〉
- 3) レチタティーヴォ:〈されど 主は憐れまん〉
- 4) アリア:〈み前に 悔いに満ち われ 深くひれ伏す〉
- 5) レチタティーヴォ:〈悩みしわれに 慰めの歌 出ず〉
- 6) コラール:〈悩める子は 苛まれし すべての罪を〉
- 7) レチタティーヴォ:〈このみ傷に われは 岩のごと身寄せ〉
- 8) アリア:〈いかに嬉し わが心よ 主はなごめり〉

### ③カンタータ第179番《神 畏るる心 偽りなしや》

Siehe zu, daß deine Gottesfurcht nicht Heucherei BWV 179

1723年8月8日初演(三位一体節後第11日曜日)。  
編成:独唱 STB、合唱、ob2、obc2、弦・通奏低音(15分)。演奏歴:未演(未刊)。

- 1) 合唱:〈神 畏るる心 偽りなしや〉
- 2) レチタティーヴォ(T):〈信仰は いま悪しく 大方はラオデキヤ人 さながら〉
- 3) アリア(T):〈偽りは ソドムの林檎と似たり〉
- 4) レチタティーヴォ(B):〈内と外 変わらざる まことなるもの〉

- 5) アリア (S) : 〈愛する主 憐みたまえ われを〉  
 6) コラール : 〈あわれなる罪びと いまみ前に立つ〉

#### ④カンタータ第 167 番《主の愛を 讃えよ》

Ihr Menschen, rühmet Gottes Liebe BWV 167

1723 年 6 月 24 日初演 (洗礼者ヨハネの祝日)。編成：  
 独唱 SATB、合唱、tp、ob、obc、弦・通奏低音 (18 分)。  
 演奏歴：1989 年 (未刊)。

- 1) アリア (T) : 〈主の愛を讃えよ なれら 主の愛 そのみ恵み〉  
 2) レチタティーヴォ (A) : 〈頌めよ イスラエルの主を〉  
 3) 二重唱 S/A : 〈神のみ言葉 偽りあらず〉  
 4) レチタティーヴォ (B) : 〈時みちて 人の子生まれぬ〉  
 5) コラール : 〈父 み子 み霊を 頌め讃えまつらん〉  
 (2018/9/10)



## 田中克彦さんの、半世紀の思考の軌跡

「田中克彦セレクション」全 IV 巻 (新泉社)

大村 健二 (団員)

団友 (で、ときにはテノール団員) の田中克彦さんが、雑誌への折々の寄稿など、これまで未刊行の執筆作品をあつめた「田中克彦セレクション」の刊行を始められました。全 4 巻の予定で、今までに 3 巻が発刊され、全 4 巻の総ページ数は 2000 ページに及びそうです。壮挙と言えましょう。

ご存じの方も多いと思いますが、田中さんは言語学とモンゴル学の分野の大御所で、岩波新書の「ことばと国家」(1981 年) など、いま手許にあるものは、2001 年の時点ですでに第 36 刷です。その他にも、一般向きの著作も多数お出しになっており、どれほど多くの国民が蒙を啓かれ、〈ことば〉への興味をかき立てられたことでしょうか。ぼくの学生時代には、構造主義やフランス思想がはやりだったので、関連する言語学関係の著書にも親しみましたが、そんななかで「田中克彦」の名前にも出会っていました。

その田中さんがわれわれの公演を聴きに来てくださったり、その打ち上げや、荻窪教会でのクリスマス祝会などにお顔をお出しになられるようになったのは、ぼくの記憶では 2011 年末の、杉並公会堂での創立 50 周年記念公演《ロ短調ミサ曲》が最初の機会だったのではないのでしょうか。ある平和集会ですでに知り合いになっていた大村恵美子の誘いによります。

その後も、公演のたび、懇親会のたびごとに、二次回にまでお残りになり、その語り口、呑みっぷり、歌いっぷり (おもにロシア民謡) の愉快さに、団員のなかに多くの田中ファンが形成されていったようです。挙句に、というべきでしょうか、2015 年の南相馬公演には、団員として！ チャーターバスでの遠征に参加されるまでに、大いに友情を育んでくださいました。

「！」は、どういう意味かということ、たとえば、その南相馬でのこと、公演取材に来た、ある全国紙の福島支局の記者さん (元東京本社社会部) が、公演後の懇親会に駆けつけて、「なぜ？ どうして田中さんが！」と驚いていた、などということもありました。長年の知人がたには、歌声喫茶でのロシア民謡高吟ならいざ知らず、バッハ音楽、それも合唱曲の最高峰《モテット第 3 番》BWV 227 や、もっとも地味な教会カンタータの舞台にいらっしやる大御所の姿は想定外だったに違いありません。

肝心の新刊書の内容には歯が立ちませんので、周辺をのみ、うろうろとご紹介しました。各巻の表題とサブタイトルを以下に掲げておきます。

- ・セレクション I 「カルメンの穴あきくつした」  
——自伝的小篇と読書ノート (2017. 11 既刊)
- ・セレクション II 「国やぶれてもことばあり」  
——言語学と言語学史篇 (2018. 6 既刊)
- ・セレクション III 「カナリヤは歌をわすれない」  
——スターリン言語学から社会言語学へ (同)
- ・セレクション IV (最終巻)  
——モンゴル・チベット・中央アジア篇 (制作中、11 月刊行予定)

半世紀にわたる「田中克彦」の思考の軌跡を俯瞰する、恰好のアンソロジーとなっています。大部ではあっても、読みやすい書きっぷりであることは、今までのご著書と同様です。

おわりに、母語でバッハを歌うことにしたわれわれの方針について、いずれは、言語学者としてのご意見をお聞かせねがいたいと望んでいます。

新泉社 (文京区本郷 2-5-12)

TEL. 03-3815-1662 FAX. 03-3815-1422

I 巻 : 定価 3200 円 + 税、II 巻 : 定価 3500 円 + 税

III 巻 : 定価 3200 円 + 税、IV 巻 : 予価 4200 円 + 税